
異世界？チートでおk

如月刹那@m9

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界？チートでおk

【Nコード】

N37860

【作者名】

如月刹那@m9

【あらすじ】

異世界に召喚されたサイトはヤケになって召喚魔法の真似事をしたらほんとに召喚できちゃって・・・

1話

人生不幸すぎた・・・不幸すぎた・・・

死に方も最悪だった・・・

なんかもう力キにあたって死ぬなんて思わないだろ・・・

???

「さて・・・ここはどこだ？」

おなじみの言葉を口にする

そこにはおなじみのジジイがいた

「ほっほっほ「お菓子好きかい？」うん大好きSAってちがーう！」

お！こいつノリがいいな

「お前誰？」

「わしは神じゃ」

「あ・・・はい・・・いい病院紹介しますよ・・・」

「いやいやまってくれ！本当だから、ね」

「あーはいはいその神様がなんのようですか」

「お主・・・信じてないじゃろ・・・」

「うん（キリッ）」

「名前如月刹那・・・職業学生・・・ひきこもり・・・性癖・・・」「ちょっとまったー」

「なんで俺のことがわかるんだよマジで本当に神・・・？」

「うん」

「・・・」

ありえねえ・・・だろまじで・・・

「で何の用？」

「暇だからちよっとお主に転生を」

「マジで!？」

やっ た ぜ k t k r w k t k 俺は勝ち組だ

「じゃあ能 r y 「能力を想像し創造程度の能力で・・・」

「まあいいかの・・・」

「行く世界は？」

「秘密」

「姿かたちは・・・能力でかえられるじやろ・・・」

目の前にいきなり扉が現れた

「この扉に入れば s 「いつてきまーす」」

「行ってしまった・・・まあ面白ければまあいいかの・・・」

1 話（後書き）

これはひどい

2話

刹那

「さて・・・着いたか・・・」

「ん？なんだこれ？神からの伝言だ」

「ここはゼロ魔の世界で原作開始の五年前に飛ばしておいたぞ、しっかり能力の練習をして原作ブレイクをするんじゃない」

「ok把握・・・とりあえず家が要るな・・・」

「すべてを作り出す程度の能力」

「さて・・・何の家にしようかな・・・城・・・屋敷・・・うん、決めた製作！」

まあしゃべらなくても作れるのだがなんとなくいいなくなった。

「おおお紅魔館だー」

「さっそく中に入って姿を調整するか・・・」

「・・・あれえ～おかしいぞお～姿変えてないのになんで羽があるのしかもフランドルの・・・」

「まあ・・・姿変えれば戻るか・・・」

「姿はもちろんマリク先生で・・・」

「マリク先生ハアハア」

「ん？なんか変な電波を受信したぞ・・・」

「・・・あれ？」

「姿かたちは確かに変わっていたしかしそこにあるはずのない歪な羽があった」

「なんでえ～？あ、さっきのに続きがある・・・」

「ps：羽自体は変えられるけど羽は消せないから・・・」

「・・・orz」

「街いったら絶対異端審問にかけられるよ・・・」
「ここで五年間過ごせてか・・・orz」

まあしかたない頑張って能力を完璧に扱つか……

1年目で能力を完璧に使いこなしたある日

「ここは……」

ここは神にあった時の空間だった

「久しぶり」

「なんだ神？」

「謝りたいことがあってな、後わしの名前はゼウスじゃ」

「んで？ゼウス、用件は？」

「実はお前を転生させた理由は暇だったからじゃないんじゃ……」
「え？」

「わしの名前から推測できるじやろうがわしは最高神ゼウスじゃ」

「はあ……」

「で……お前には、わしの後継者になってもらう」

「え？」

ちよつとまって……後継者ってことは俺が神になるってことだよな

「ん？お前はすでに神だぞ」

「は？……いやいやどゆこと！？」

「お前は今はまだ最高神とはいかないが既に高位の神じゃから寿命もないし神じゃなかったら「能力を想像し創造する程度の能力」なんて渡さんかったぞ」

「へーじゃあ俺は神なのか……でもなんで転生させたんだ？」

「試験じゃ最高神に簡単になれると思うな、試験の内容は

1この世界で使い魔として召喚されるから主が死ぬまでこの世界にいる

2別の世界に行き100年〜110年そこで神になるための修行をする

3わしの後を継いでもらうじゃ」

「まあ1は元の世界で生きれなかったぶんの償いじゃ」

「そうかありがとな・・・じゃあな・・・」

「刹那・・・わが息子よ・・・頑張ってこいよ」

そして4年の月日がたっていった・・・

2話（後書き）

キャラが崩壊します

パンツよりぱんつの方がエロイと思うのは俺だけ？

サイト

なんだよこれ召喚！？なんだよ！ふざけんなよ！

「ちよつとアンタ聞いているの？」

「うるさい、どこの誰でもいい俺のところへきやがれ！！」

「平民のあんたが召喚できるわけないじゃない」

その瞬間爆発しそこには一人の人がいた

刹那

さて・・・五年たったが・・・ん？・・・

「ウホッいい鏡・・・」

さて・・・俺は誰に召喚されるのかなあー

「ダーイブ」

「神を呼び出したのはどこのどいつだ？」

さて・・・誰に召喚されたんだ

「俺だ」

「は？」

やべこえにでちまった

「えゝ男とキスなんてしたくねえよー」

「それはこっちのセリフだ！」

んー絵図的に男×男だと腐がわいちゃうからフランドール・・・いや・
・レミリアになる！

サイト

そこには一人の人間がいた・いや人型がいた

「平民が平民を召喚したぞー」

いや・神って言うのは無視かよ・それよりもなんだあの羽
！？フランドール！？

「神を召喚したのはどのどいつだ？」

え？

「俺だ！」

「は？」

は？じゃねーよ何で召喚したかなんてしらねーよ

「え、男とキスなんてしたくねえよー」

「それはこっちのセリフだ！」

彼は少し悩んだ後突然彼が光り始めた・・・光り終えたときにはそこには彼ではなく彼女・・・レミリア・スカーレットがいた

「え!？」

「これなら大丈夫よね。」

俺の嫁だっ！！

「レミリアタソハアハア」

「キモイ・」

「すいませんでした」

契約の言葉以下省略

[illegible]

「契約……完了……」

刹那

キスしてやったしかもディープでwww
しかしサイトの反応はキモかったな・・・

おつと・・・手が熱い・・・が・・・

「この程度の熱さなんて神から見ればぜんぜんだな」

「契約・・・完了・・・」

「よろしくな俺は刹那・スカーレット女性状態のときはレミリア・スカーレットだ由緒正しきスカーレット家だ」

「よろしくな俺は平賀サイト」

「ちなみに俺の魔法のレベルはオクタゴン以上だ」

ざわ・・・ざわ・・・

「それにしても君たちのルーンは珍しいルーンだな」

「さてと、じゃあ皆教室に戻るぞ」

そう言うのと皆が浮かびだす。

「ルイズおm（ry」

「アイツフライ（ry」

そう言われて広場には3人だけになった

「アンタ達、なんなのよ！」

「お前こそなんなんだ！ここはどこだ！お前達は何なんだ！何で飛ぶ！俺の体で何をした！」

「つたく、どこの田舎から来たのよ」

「まて、まず部屋に戻ろう」

「アンタたち一緒に歩いてきなさい！」

「・・・なんでアンタが飛べるのよ！」

え？そりゃあ

「だって羽あるし・・・」

「つーかその羽で飛べてんのかよ・・・」
うるせーサイト

「は、羽なんてどこにも」

「あるだろ、ほら」

そう言つて後ろを向く

「何？この飾りは？」

「これが俺の羽なんだよ・・・」

「え？嘘！？・・・そう残念」

？

「何が残念なんだ？」

「そのきれいなやつあとで指輪にしようと思ったのに」

ルイズエ・・・

「まあなんだ寒いしさつさといくぞ」

「わ、わかったわよ」

「応っ」

「はあ？異世界人？」

「そうだけど？何か？」

「俺は神だ」

「そんなの信じられないわよ！」

「サイト・・・パソコンやら携帯ぐらいあるだろ、それでも見せてやれ。少しは信じるだろ。」

「何？この魔法は？」

「これは科学だ」

「全く・・・アンタ達何なのよ・・・」

「神」「異世界人」

「とにかく・・・まあしょうがないから少しぐらい認めてあげるわ。つてそっちの名前なんだっけ？」

「刹那・スカーレットだよろしく」

「私はルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエー

ル」

「よろしく・・・ご主人」

「お前の主人は俺だろ？」

「サイトの主人だからご主人って呼ぶのは当たり前だろ」

「それで俺の故郷は月が1つしかないぞ？それであんなに大きくもない」

「無視しないで。って月が一つ？」

「そうだ。そう言えば魔法使いがいない」

「こんな馬が現役なところじゃないが？」

「そんな世界がどこにあるの？」

「あつちにある」

「俺がいた所はそうだったんだよ！」

「怒鳴らないでよ。平民の癖に！」

「で、本題からすればアンタ達は異世界から来たの？」

「俺のいた場所では世界中リアルタイムで大体のことが分かるけど魔法で誰かが死にましたなんてことは無かったよ。魔法なんて空想上だよ？信じてれば笑いものになるくらい」

「その通り」

「話を総合すると俺は帰れない。使い魔2度無理。死ねば。ファ
ンタジー万歳な世界ってことでいいのか？」

「だね」

「・・・分かった。しばらく使い魔とやらに付き合ってやるよ」

「あ・・・そう」

「さてねるか」

「ちよつと部屋の隅借りるよ」

「いいわよ・・・なんで囲いで囲むの？」

「俺の寝室だから当たり前だろ」

「中どうなってるの？」

「こうなってる」

ルイズ

「こうなってる」

中にはすごい豪華な部屋があつた

「すごい・・・」

なによこれ、私の部屋よりすごいじゃない

サイト

「なあ俺の部屋は？」

「あ、まだベットないから明日ね」

（・・・）

「そうだ、」

ん？なんだ？

「何？」

「何だ？」

「お休み」

「・・・お休み」

「お休み」

そして1日が終わった。

パンツよりぱんつの方がエロイと思うのは俺だけ？（後書き）

作者 三話目キタ

刹那 とゆうか小説もアニメも見ただことないのにこれ書いた作者を俺はいろんな意味で尊敬するわ・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3786o/>

異世界？チートでおk

2010年10月28日07時21分発行